



会場一杯に約300人が参加した世紀越えトンネルフォーラム

# 田子町 議会だより

2017



第90号

平成29年2月8日発行  
青森県田子町議会

## 目次

一般質問に3議員登壇	4
フォーラムに300人参加	8
先進地から学び町政に生かす (議会活動報告)	12
新年のごあいさつ	16

# 第4回定例会

## 定例会のあらまし

平成28年第4回定例会は12月8日から13日までの6日間の会期で開催されました。

本会議初日には、条例改正や補正予算案など14件の議案が提出され、町長から提案理由の説明がありました。12日の一般質問では3人の議員が登壇。町政全般に対して質問をし、活発な議論が交わされました。13日には、初日に町長から説明のあった議案について厳正な審議が行われました。

## 主な補正予算

### 一般会計 歳入

#### ●国庫支出金

子どものための教育・保育給付費負担金 1388万4千円

保育給付費の増などによるもの

臨時福祉給付金（経済対策分）事業費補助金 2326万5千円

低所得者を対象とし、1人1万5000円を給付するもの

#### ●県支出金

担い手確保・経営強化支援事業費補助金 610万円

認定農業者を対象として農業用機械の導入を支援するもの

現年発生農林水産業施設災害復旧費補助金 431万5千円

農地・水路の3カ所に係る災害復旧費補助金

### ●町債

現年発生農林水産業施設補助災害復旧事業債 160万円

農地2カ所、農業用施設1カ所に係るもの

現年発生農林水産業施設単独災害復旧事業債 370万円

農地6カ所、農業用施設7カ所、林道1カ所に係るもの

現年発生公共土木施設単独災害復旧事業債 290万円

柴倉沢他5件に係るもの

### 一般会計 歳出

#### ●民生費

扶助費 1590万1千円

障害者給付費の増見込みによるもの

障害児通所給付費等扶助 611万2千円

訓練等給付費扶助 1171万6千円

など

臨時福祉給付金（経済対策分） 2326万5千円

低所得者を対象とし、1人1万5000円を給付するもの

#### ●衛生費

不採算地区公的病院等対策事業補助金 200万円

特別交付税制度を活用して、社会医療法人に対し助成するもの

### ●農林水産業費

担い手確保・経営強化支援事業費補助金 610万円

認定農業者3名を対象として農業用機械の導入を支援するもの

#### ●災害復旧費

現年発生農林水産業施設災害復旧費 1379万9千円

主に災害復旧工事費で、補助と単独を合わせて、農地8カ所、農業用施設8カ所、林道1カ所に係るもの

現年発生公共土木施設災害復旧費 300万円

柴倉沢他5件に係る災害復旧工事費

### ○件名

「地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書案」

### ○意見書の趣旨

地方議会議員が厚生年金（地方公務員共済）へ加入する制度を確立する事により、国民の幅広い政治参加、議員を志す新たな人材の確保につながることから、意見書に関係行政庁へ提出するもの。

### ○審査結果

可決

## 意見書

# 審議結果

補正予算や条例改正など、  
14件の議案が提出され審議しました。  
結果を一覧で掲載します。

議案番号	件名と主な内容	議決結果
議案第50号	議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正	可決 (賛10・否0)
議案第51号	田子町特別職の職員の給料等に関する条例の一部改正	可決 (賛10・否0)
議案第52号	職員の給与に関する条例等の一部改正	可決 (賛10・否0)
議案第53号	田子町町税条例の一部改正	可決 (賛10・否0)
議案第54号	田子町国民健康保険税条例の一部改正	可決 (賛10・否0)
議案第55号	田子町農業委員会の委員等の定数に関する条例の制定 ①現行13名から10名とする ②新たに、農地利用最適化推進委員を設置する。田子地区4名、清水頭地区2名、相米地区2名、原地区2名、石亀地区2名、来満地区2名の6地区14名体制。	可決 (賛10・否0)
議案第56号	特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正 田子町農業委員会の会長、職務代理者、委員、それぞれの報酬は年額報酬として規定されていたが、日額に改めるもの	可決 (賛10・否0)
議案第57号	青森縣市町村総合事務組合理約の変更 平成29年4月1日から、共同処理する事務のうち市町村税等の滞納整理に関する事務にむつ市を加えることから、組合理約を変更するもの	可決 (賛10・否0)
議案第58号	平成28年度田子町一般会計補正予算(第5号) 歳入歳出予算の総額にそれぞれ7351万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ48億7133万9千円と定めるもの。	可決 (賛10・否0)
議案第59号	平成28年度田子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第3号) 歳入歳出予算の総額からそれぞれ1978万4千円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ10億8085万1千円と定めるもの	可決 (賛10・否0)
議案第60号	平成28年度田子町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号) 歳入歳出予算の総額にそれぞれ7万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ6527万6千円と定めるもの	可決 (賛10・否0)
議案第61号	平成28年度田子町介護保険事業勘定特別会計補正予算(第3号) 歳入歳出予算の総額にそれぞれ132万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ10億1865万円と定めるもの	可決 (賛10・否0)
議案第62号	平成28年度田子町国民健康保険町立田子診療所及び介護老人保健施設事業特別会計補正予算(第3号) 歳入歳出予算の総額からそれぞれ22万5千円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ4億4973万2千円と定めるもの	可決 (賛10・否0)
議案第63号	平成28年度田子町水道事業特別会計補正予算(第3号)	可決 (賛10・否0)

# 一般質問

一般質問は、町政全般にわたって町に疑問点を問いただし、議員自らの政策提言を行う大事な議員活動の場です。12月定例会では議員3人が一般質問を行いました。



宇藤 大介 議員

## 町の奨学資金制度

### 【質問1】

我が町の将来を担う子どもたちへの投資は必須であると考えますが、町長の見解は。

### 【町長答弁】

町としては、大きな課題のひとつとして議論を進めており、現在立ち上げている「次代の子ども教育環境を考える懇話会」の中で、地域学、地元学を中心に据えた協議を重ねていく。

### 【質問2】

町の奨学資金制度は、現在の世相（1人親世帯の増加、少子化傾向、所得の減少）に見合ったものとして設定されているのか。

### 【町長答弁】

経済格差が教育格差になってはならないとの観点から、所得の多寡、収入イコール住みやすさ住みにくさという価値観を排除し、家庭内の問題を町の問題、地域の課題と位置づけ、支援していく。

### 【質問3】

現在の奨学資金の基金残高、利用者人数動向、傾向を示せ。

### 【町長答弁】

平成28年3月31日現在で、基金積立額1億3657万7千円、現金残高9941万3千円。これまで49名が利用し、償還中が22名、完了者が5名、償還待機者が15名。

### 【質問4】

貸与額、制度の拡充条件緩和等、検討されている項目があればお知らせ願いたい。

### 【町長答弁】

「次代の子どもの教育環境を考える懇話会」からの答申や提言等を踏まえ、制度の見直しに向けて検討することとしている。

### 【質問5】

国の対応に先駆け、町のできる子どもたちへの施策の展開を期待するが、町長の所見は。

### 【町長答弁】

子どもたちの郷土愛を醸成する施策の展開、地域、ふるさととの関わり、人間関係を大事にする支援、助成を念頭に、家族、地域との絆を大事にする我が町の応援団となってもらうことも含めて議論を進めていく。

### 【質問6】

答弁の中で「教育と産業を掛け合わせた戦略的な施策を展開しながら、町の活力を生み出していく」とあったが、この真意は。

### 【町長答弁】

地域の中で暮らす人々が、どんな役割を

## 雇用の創出 ・企業誘致

### 【質問】

前述した子どもたちへの投資も、学問を修め資格を取得し、社会の構成員となった彼らの受け皿、即ち働く場、能力を生かす環境が整備されていなければ、他所へ流出させてしまうことに他ならない。町として投資した貴重な人材を登用、雇用する施策の展開が急務である。町として大々的に雇用の創出、企業誘致に取り組むべきと

考えるが、その際に生ずる問題点、課題を明示した上で将来的な展望を示せ。

### 【町長答弁】

新たな就業の確保や若者が定住できる豊かな産業を築くことが必要不可欠である。町のあらゆる産業分野で、若い後継者の育成、確保と、意欲ある能力に優れた経営者の育成に努め、町ならではの独自の産業づくりや、起業を含めた魅力ある新たな雇用の場を創出していききたい。貴重な人材を町外へ流出させず、町内で雇用できる仕組み作りを最重要視し、教育と産業を掛け合わせた戦略的な施策を実施、展開していく。



欠端則夫 議員

### 町内の除雪

**【質問1】**  
各路線の業者名と町の所有機械の使用者は。

**【町長答弁】**  
(株)釜淵商事には清水頭と田子地区、(株)山市建設工業には遠瀬と新田地区、三田建材運輸(株)には雀ヶ平と長沢地区、229スキーランドを愛する会には大黒森線を委託している。町所有のグレーダー及びトラックは(株)釜淵商事に貸与している。

**【質問2】**  
出動基準と機械の選定は。また、融雪剤の散布基準は。

**【町長答弁】**  
原則10cmの降雪で出動となる。トラックやグレーダーは幹線的路線を主体に、その他の路線はすべてローダーで対応している。

**【質問3】**  
落田地区の日陰の部分が毎年大変厚くて氷になつている。グレーダーを出動させ、クシ刃で起こしてやるべきではないか。

**【建設課長答弁】**  
その箇所については把握しており、クシ刃

を使った除雪は調査してみたい。

### 工事中の迂回路

**【質問】**  
椀山から十和田湖への道路が工事通行止めとなり、小国から川代への道が迂回路として利用され、大型車が通つてすれ違いに苦労している。せめて水源地区までの道路幅を広くできないか。

**【町長答弁】**  
道路整備は総合的に勘案しながら取り組んでいる。川代集落までは舗装道として整備されており、その先は集落もなく農地や山林のみで優先度が低い。地権者のご協力いただけるなら待避所を設けることは可能ではないかと考えている。

### 熊の駆除

**【質問】**  
初雪の降るころが熊の足跡を追って駆除する最高の時である。ただ、県境を越えて追いかけることができないため、他県との連携が大事である。他県との交流は進んでいるか。

**【町長答弁】**  
他県との連携による熊対策については、近隣町村の遭難担当者や鳥獣駆除の担当者による対策会議により、相互連絡、協力体制、情報共有の手法などについて検討・協議した。秋田県鹿角市とは個別に協議・打合せを進めてきたが、合同での捕獲作業等は困難な結果となった。

### にんにくとべごまつり

**【質問】**  
にんにくとべごまつりが大好評で良いが、町はどの程度の規模で進める気か。駐車場、ボランティア、牛肉等いろいろ不安がある。

**【町長答弁】**  
今年度は1万4千人のお客様からお越しいただいた。遠くの駐車場から会場までのシャトルバス運行も実施したが利用者が少なく、ピーク時には清水頭地区まで車が並ぶ事態が生じ、ご迷惑をおかけした。対策として、駐車場とパーベキューコーナーの拡幅及びパーベキュー台等の増設、中高生ボランティアを含む町民ボランティア等の拡充を図る。牛肉確保については、引き続き田子牛確保対策の強化に努める。

### 田子牛について

**【質問】**  
行政の取り組みを待たずに牛舎を増設、新設する人がいるが、自分の予算で行い小さめである。やりたい人がある今、手を貸さないのか。また、クラスター事業については町としてやる気があるか。

**【町長答弁】**  
クラスター事業は、いろんなサービ事業等々がぶどうの房のように形成されていくことが基本的な考えであり、牛舎が欲しい人だけが集まってクラスター化とは言わない。加工業が始まり、焼き肉屋さんなどが町の中に展開されていく。こういうことが起こってくるとクラスター化と言われるものになるうかと思う。今度、担当課の方から話し合いの場を作っていきたい。



沢口博二 議員

国際交流の  
在り方

【質問1】  
姉妹都市交流の今後の関係につき、どのように考えているか。

【町長答弁】

今後もお交流を深め、町民の国際感覚の涵養と国際理解活動を推進して参りたいと考えている。

【質問2】  
短期の交換留学ということはできないか。

【町長答弁】

留学により、人生経験、語学力向上がはかれるが、現在の海外派遣事業等をまず、継

続してまいりたい。

【質問3】  
経済的な交流も考えられないか。

【町長答弁】

今後は、様々な機会を通じて経済交流の可能性を探っていききたいと考えている。

森林資源の  
活かし方

【質問1】  
「森林資源活用検討委員会」の目的、構成を教えてください。

【町長答弁】

森林資源の掘り起こしと、その事業化の可

能性を探るため。構成は、森林管理署、県民局、森林組合、林業関係者等、各分野の方が参加している。

【質問2】  
町の助成はあるか。

【町長答弁】

必要に応じ予算化等、協議してまいる。

東京田子会、  
ふるさと納税

【質問1】  
東京田子会の今後につき、町長のお考えを聞きたい。

【町長答弁】

田子会の皆様と連携し、若い世代の抛り所づくりやイベント参加を促し、町の政策への協力、Uターンの意識付けを進めたいと考えている。

【質問2】  
ふるさと納税への対応は、返礼品だけで終わって良いのか。

【町長答弁】

広報の送付等もその一つだが経費がかかる。田子の情報をお伝えすることは大いに検討してまいりたいと考えている。

ガーリックセンターとフェザン  
通り活性化

【質問1】  
国際交流協会の経営内容を教えてください。

【町長答弁】

平成27年度は約600万円の赤字であり、今年も推計だがそれ以上の利益は出ると思われる。

【質問2】  
フェザン通り活性化の具体策は

【町長答弁】

12月10日に、フェザン通り街並み検討委員会と連携し大抽選会を開催した。今後、協会としても商店会と協力し、活性化に努めている。

老人・年金受給者

【質問1】  
国民年金受給者の実際の手取り額を把握しているか。

【町長答弁】

一般論ではあるが、約5万円ほどとらえている。

【質問2】  
生活困窮者の救済策はあるか。

【町長答弁】

現在は87名の生活保護者があるが、それに至る前段階の支援として「三戸地方自立相談窓口」を開設している。役場住民課福祉グループがその担当になっている。



東京田子会の参加者

# 議員活動報告

議員はそれぞれ、議会運営（議会広報編集）委員会、総務・文教常任委員会、産業・民生常任委員会に5人ずつ所属しています。また、特別委員会の活動や、町政に活かすため研修会の参加、先進地の視察を行っています。

## 協議

○実施日 11月28日  
12月8日開会の平成28年第4回定例会の議事日程について協議した。

### 議会広報編集委員会

○実施日 10月14日  
議会日より第89号の内容を確認し、誤字・脱字・レイアウト等校正を行い、10月26日に発行した。

○実施日 11月28日  
議会日より第90号の担当者、構成、スケジュールについて協議した。また、委員からは町民との懇談会の早期開催に向けて意見が出された。

## 町民との懇談会の早期開催を

### 議会運営委員会（議会広報編集委員会）

【構成委員】 宮村尚哉委員長 宇藤大介副委員長 日沢一雄委員  
尾形憲男委員 沢口博二委員

## 事務事業調査

ザマスト設置工事を契約。

○実施日 11月21日

委員会を開催し、所管に係る事務事業の調査を行った。

### 【教育課関係】

田子町いじめ防止基本方針、県立高校の再編シミュレーションについての意見交換の内容の説明。

### 【総務課関係】

人事院勧告に基づき、職員への給与、勤労手当、扶養手当、特別職並びに議員の期末手当の見直しを定例会に上程。

消防・防災関係は10月23日に町災害対策本部図上訓練を実施。県

防災危機管理課職員、三戸消防所、町消防団自衛隊から参加していた。池振、清水頭地区が新たに自主防災組織を結成し町内で17組織に。上野地区のパン

### 【政策推進課関係】

連携中枢都市圏の形成に向け、ビジョン案を説明後、3月定例会で協議。3月下旬に告示予定。財団の運営では、にんにく加工用原料仕入れ状況について、量は昨年より1割増だが単価は同程度。その他、第16回ふるさと自

慢わがまちCM大賞に応募し大賞を受賞した。

### 【住民課関係】

防犯灯LED化整備工事では、今年度は233基を発注。宮野地区研修センター改修工事を12月に発注。

### 【税務課関係】

10月末までの徴収実績は昨年比微増。ふるさと納税の現在額は2786万円。昨年と比べ金額は上回り件数は減少している。

## 現地調査

○実施日 11月7日

町のにんにく種子増殖ほ場における植え付け状況調査と新田地区町道の状況調査を実施。

## 事務事業調査

○実施日 11月25日

国の「臨時福祉給付金」の説明があり、1551人を対象に受付しているとのこと。

### 【建設課関係】

「世紀越えトンネル」についてのフォーラムを11月5日に開催。約300名もの参加者があり、関係者からは「今後の諸活動に大きな弾みがついた」と意見が寄せられた。

### 【産業振興課関係】

たつこにんにくの商標登録が完了したところ、農業後継者対策として、新規就農育成支援事業、農業先進技術チャレンジ支援事業の現状説明があった。

## にんにくほ場と町道を現地調査

### 産業・民生常任委員会

【構成委員】 沢口博二委員長 日沢一雄副委員長 蹴揚清人委員  
砂子田康雄委員 欠端則夫委員



新田地区町道の調査

# 世紀越えトンネル建設求め約300人が参加 重要港湾動脈道路事業化促進フォーラム



パネルディスカッションの様子

田子町と鹿角市を結ぶバイパス道路（通称・世紀越えトンネル）の建設を目指す「八戸能代間重要港湾動脈道路事業化促進フォーラム」が11月5日、タプコピアンプラザホールで開催されました。

多忙の中ご出席いただいた、大島理森衆議院議長、木村太郎衆議院議員からは、広域観光物流、交流人口、さらに震災時のいのちの道路としての建設促進に向けた力強い祝辞をいただきました。

また、金田勝年法務大臣（秘書代理出席）、滝沢求参議院議員（秘書代理出席）、田名部匡代参議院議員、児玉一秋田県鹿角市長、藤原淳岩手県三戸市長、八戸能代間沿線の多くの町村長はじめ、県内外から一般参加者300人以上の御出席のもと盛大に開催され、トンネル建設への大きな期待感の込められたフォーラムになったことを痛感し、感謝申しあげます。

（原稿作成 日沢一雄）

## 基調講演



●講師  
八戸市長 小林 眞  
●演題  
「八戸・能代間、北東北横断道路の必要性と期待される効果について」

戸として、「未来につながるプロジェクト」の紹介があり、八戸港とバイパスルートの関係について次のとおり説明がありました。

○八戸LNG（液化天然ガス）輸入基地として平成27年運転開始。北東北、北海道道東地区へLNGの供給が飛躍的に伸びている。

○飼料供給基地として北東北一円の畜産業を支え、平成25年には約200万トンの取扱量を記録し年々増加傾向にある。北東北の経済活動を支える物流拠点として発展する中で、安全な広域物流を促進するためには、国道104号、103号、7号を経由し、八戸・能代間を結ぶ北東北横断道路整備が不可欠である。八戸能代間の沿線の関係市町村が協力し合い、一日も早いトンネル建設実現に向けて努力して参りたい。

## パネルディスカッション

フォーラムの後半にはパネルディスカッションがありました。進行役のコーディネーターは有限会社敬和マーカーテイニング総研代表取締役の横内靖氏が務め、4名のパネラーがバイパスルートの必要性を述べました。

### 青森県トラック協会

釜淵清嗣氏

バイパスルートが整備されれば、交通事故の減少、時間短縮により、ドライバーの疲労軽減、労働時間の改善にもつながる。複合的な効果として、生産性の向上、物流の活性化が見込まれるのではないか。

### 鹿角市議会議員

和井内貞光氏

このトンネルには先人の並々ならない努力がある。この路線は太平洋と日本海を結ぶ日本列島の大動脈として期待をよせ、ずっと以前から開通に向け活動している。道路の開通は我々に託されている。

### 三八五観光圏

田中義弥氏

安全面が確保され、時間が短縮されれば、八戸から田子を通り秋田に抜ける、十和田湖観光へのゴールデンルートになる。また、大館、三沢、花巻の空港からの二次交通が良くなれば、外国人観光客が増える。

### 毛馬内こもせ商店街 協同組合理事長

馬淵大三氏

次回のフォーラムには能代市長から講演してもらい、仲間を増やす事が大事である。また、秋田県側にはのぼり旗がない。地域の団体を巻き込んで促進するべきだ。



## 人口が少なくなった町村における広域連携 〜八戸圏域定住自立圏の形成に係る勉強会〜



講師の小川康則氏

10月21日、八戸圏域定住自立圏形成促進議員連盟の総会並びに定住自立圏の形成に関する講演会が、新郷村都市農村交流センター「美郷館」で開かれ参加して参りました。総会では案件1件を了承し閉会いたしました。

続いて講演会では、「連携中枢都市圏構想について」と題しまして講師に総務省自治行政局市町村課長の小川



講演を聞く参加者

康則さんを招き講演いただきました。内容は①社会状況の変化で国内における総人口と世帯数の推移で国内総人口は2008年をピークに今後100年間で100年前の明治時代後半の人口水準に戻ると予測されました。

②市町村合併の進展とその影響で市町村数の推移、合併による市町村数の変遷、地方公共団体の構成の説明で、我が国の市町村数は明治、昭和、平成と3度の大合併を経て、7万を超えていた町村が現在では1718市町村にまで減少しました。

③現在進められている「新たな広域連携」として先進事例3件紹介していただきました。姫路市を中心とした播磨圏域中枢都市圏の取り組みでは「はりま地域ブランド」の確立を推進するための取り組みなど紹介していただきました。

(宮村尚哉)

## 三戸郡選出の県議会議員が県政報告

### 〜三戸郡町村議会議員研修会〜

去る11月18日、三戸郡町村議会議長会主催

の議員研修会が階上町「ハートフルプラザ」参加してまいりました。



質問をする日沢議員

今回の研修会は三戸郡選出県議会議員2名を招きまして「県政報告会並びに三戸郡町村議会議員との意見交換会」と題しまして開催

されました。

まずは、県議会議員北紀一氏と夏堀浩一氏の県政報告会では、来年度の当初県予算の編成のポイント、持続可能な財政構造の構築に向けた取り組みなど説明いただきました、現在取り組みのなかの1つである「総合的なPPP関連政策に基づく施策」の内容、要望書についてのお話をさせていただきました。

(宮村尚哉)

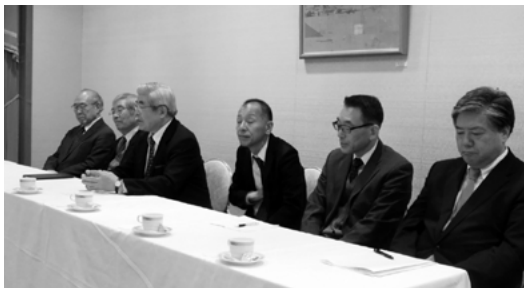
続いて今回の研修会



報告する北議員(左)と夏堀議員(中央)

## 東京でがんばる田子人の拠り所

### 〜東京田子会〜



さまざまな意見交換をした役員会

できております。ただ中には現役世代も何名か参加してくれており、何とか、この若い世代と交流し、今後も東京の田子人の拠り所として継続していきたいと、参加している方々と話し合っていました。皆さん、田子の郷土料理などに舌鼓を打ちながら昔話に



思い出話に花を咲かせる参加者

花を咲かせておりました。厳しい都会

を生き抜いてきた方々の苦労話は尽きることはありませんでした。

議会としても、全面的にこの貴重な「田子会」の活動を応援していきたいと考え、帰路につきました。

(沢口博二)



久しぶりの再会を祝い記念撮影

11月23日、東京都ケ谷での東京田子会の様子をお知らせします。はじめに、役員会に出席し、神楽坂での田子高校郷土芸能部の神楽披露の説明と、今後も継続したいとの意向があり、町としても応援していきたい旨を伝えました。

田子会では、ご承知のように、参加者の高齢化で年々寂しくなっ

## 町の未来を担うバイパスルート建設に向けて

### 〜国会陳情活動〜

現在の我が町の抱える人的交流、物流、経済・医療の拡充を集約した、田子町夏坂と秋田県鹿角市大湯間におけるバイパスルート建設へ向けた県選出国会議員への陳情、要望活動を、去る11月24日に行って参りました。

趣意書を手にも、町長、議員団、職員の随員の



秋田県選出の金田法務大臣に要望

もと、7名の衆議

院議員（1名は秋田県選出）、2名の参議院議員の事務所を訪ね、トンネル工事早期着工に向け、精力的に

要望を展開しました。長年棚上げとなってきた経緯のある本事業ではありましたが、来年度に秋田県側で調査費が予算化され

しておりました。

我が町の未来永劫の繁栄を標榜する本事業の達成に向け、我々議員も英知を結集して取り組んで参ります。

(宇藤大介)



大島衆議院議長に要望書を提出

## 施設更新の必要性を再確認

### 三戸地区環境整備事務組合視察

10月31日から11月2日にかけて、三戸町、南部町、田子町の議会議員で構成される三戸地区環境整備事務組合の視察研修があり、長野県伊那市の伊那中央衛生センターと、岐阜県美濃市の美濃市斎場「やすらぎの丘」を視察しました。

変わったってきているが、対応できているとの事。汚泥処理後は農地還元がなされていて、施設は簡素な作りで、臭いは他の施設と比べてしないと感じました。

伊那中央衛生センターは、伊那市、箕輪町、南箕輪村の1市1町1村で事務組合を組織しています。衛生センターでは水処理にバチルス菌（※1）を利用しており、自然界にごく普通にいるバチルス菌の能力を向上させることにより、良好な処理を行っています。昭和55年から稼働開始し、処理能力は1日200kl。受入物の割合は

変わってきつつあるが、事業費は3億8千万円です。施設内容は人体炉3基、動物炉1基の4基体制で、1日6件まで対応可能であり年間250件から300件の依頼があります。この地方の特徴として待合室のない施設ですが、当組合では同程度の炉と待合室の設置が必要と感じました。

2日間の視察を終え、当組合施設の更新の必要性を再確認しました。

（尾形憲男）

（※1）バチルス菌

日本名では枯草菌。枯草・稲ワラ・落ち葉・堆肥・塵や淡水・海水など自然界に広く分布している。納豆菌も枯草菌の仲間のひとつで、動物の腸内細菌の改善、土壌の微生物叢の改良に利用される。

（※2）プロポーザル方式

複数の者に目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。

## 国内最大級の食肉市場を視察

### 田子高原広域事務組合議員視察

11月28日から30日にかけて、田子高原広域事務組合議員の視察研修がありました。当組合議員は三戸町、五戸町、田子町、南部町、新郷村の5市町村の議員から2名ずつ選出した10名で構成され、田子高原地区牧野の設置、管理及び運営に関して調査や協議をしています。また、年2回開催される定例会や臨時的に開

催される臨時会で予算や条例改正等について審議をしています。今回の視察では、東京都にある食肉市場を訪問しました。

海綿状脳症の疑いが出た場合は市場には出回らないこととなっています。紹介が終わると、業務衛生課の早見課長の説明で実際のセリ場を見学しました。買参人や仲卸業者がいるセリ場では、多くの取引が行われ非常に活気にあふれていました。

はじめに見学したお肉の情報館では、近年の市場の歴史や、畜産情勢、普段食べている肉の製造工程が、模型等で詳しく展示されていました。

続いて、東京都食肉市場の紹介や、と畜方法についてのビデオ鑑賞を行いました。食肉市場は昭和41年に開設され、現在ではおよそ1000人が勤務しています。年間処理頭数

の实绩として平成27年には、牛9万5787頭、豚21万5943頭で、衛生面を徹底しており、牛はBSE（牛



食肉市場職員による説明

の实绩として平成27年には、牛9万5787頭、豚21万5943頭で、衛生面を徹底しており、牛はBSE（牛

今回視察研修は本当に有意義な研修でした。年度末をひかえており、大量の枝肉が吊されて冷蔵保存されている、なかなか見られない冷蔵庫内の状況には驚かされました。セリも見ることができ、JA八戸管内の研究会の牛も上場されており、良い機会に恵まれました。

（砂子田康雄）

# 行政視察研修報告

先進地の取り組みを学び田子町の発展に生かすため、11月13日から16日の3泊4日の日程で県外行政視察研修を行いました。14日は、宮崎県国富町ではシルバー人材センターについて、宮崎県高原町では産業振興について、15日には鹿児島県大崎町で移住定住関係について学びました。

11/14

## 宮崎県 国富町

### 国富町の概要

国富町は人口19329人、面積130.63km<sup>2</sup>の、宮崎市の北西に位置する町です。農業基盤整備と農家経営の充実に力を注いでおり、米、施設・露地野

菜、畜産など、農業を基幹産業としています。温暖な気候により、マ

ンゴー等の特産品があります。古くからの神話の郷としても有名で、古墳等も数多く残っています。



シルバー人材センターを訪問

### シルバー人材センターの活動



しめ縄作りの作業の様子

はじめに公益社団法人「シルバー人材センター」を訪問し、高齢者が作業をしている様子を見学しました。見学したのは正月のしめ飾りを作成している現場で、毎年多くの注文があるそうです。センターへの登録会員数は263名で、しめ飾り作成のほか、きゅうりやピーマン等の農作業、

はじめに公益社団法人「シルバー人材センター」を訪問し、高齢者が作業をしている様子を見学しました。見学の後は、作業場の見学後には、町職員による説明がありました。シルバー人材センターは約20年前に、町、議会、商工会、農協の参加で設立されました。当初は売り上げも1000万円足ら



職員によるセンターの説明

ずでしたが、今では年間1億円を超えているそうです。少子高齢化の時代到来を見こした、

### 国富町を訪問して

国富町を視察して、何より感じたことは、我々議員、町の要職にある者は常に先を見据えた政策、施策を考えなければならない、ということ。

国富町では、約20年前に今の状況を予見して手を打ったのです。シルバー人材センターの取り組みは、単なる労働力ではなく「生きがい」を作り出したと言えます。

(沢口博二)

まさに先見の明だと思います。センターの経営は、専任職員5名の下で非常に上手くまとめられているようにでした。職種もバラエティに富んでおり、その都度、利用者にアンケートをとるなど、細やかに活動しており、参考になるところでした。

# 宮崎県 高原町

## 高原町の概要

高原（たかはる）町は宮崎県の南西部、鹿児島と接する山間の深い町で、面積85・39<sup>2</sup>km<sup>2</sup>、人口約9100人が住んでいます。

主産業は農業で、農業粗生産額の約7割は



高原町の畜産について説明を受ける訪問団

も美しい村連合」に加盟しており、森林面積が全町の50%を占める水と緑に富んだ自然豊かな町です。

## 手厚い畜産への助成

高原町は農業を主とした町であり、町職員等の説明も、当然ながら農業、とりわけ畜産が多くありました。

なかでも肉用牛と乳用牛の合計は1万2千頭と町の人口をはるかに越えています。

この頭数と飼養戸数のため、全体への助成は行わず、ポイントを絞って付加価値の高い素牛に對しての助成を実施しているとのこと。

繁殖牛は品評会の成績が良くて血統の優れた牛、枝肉成績の優れた



あいさつをする総務経済常任委員会副委員長の益本一博議員

母体から生まれた牛の導入、保留に3〜10万円を助成。

肥育は産次数の若い母牛から生まれた牛と高原町で生産された新規種雄牛を父とする肥育素牛を導入すれば3万円を助成。

貸付は繁殖が最大80万円、肥育が最大60万円を無利子で、保証人2人を条件に貸付する。

飼料対策は法人、集落営農の団体に作付けと収穫を受託する。

クラスター事業を活用して平成24年から新規繁殖農家が5戸、新規拡大4戸で、約400頭の繁殖母牛増となったそうです。

ただ、担い手は減少しており、繁殖農家年齢は平均65歳だが、繁殖頭数は今後少しの減で済むのではないかとのこと。

ふるさと納税が3億円くらいで、返礼品では宮崎牛が一番人気があ



畜産の取り組みを資料で説明

であれば返礼品とすることとしたそうです。

その収益から肥育農家へ助成するとともに、出荷1頭あたり宮崎牛消費券なるものを2枚分差し引いているという。子牛1頭出荷で1枚を差し引いて消費拡大に資するそうです。

り、他の市町村でも宮崎牛の取り合いになってい。そこで高原町は、当初は高原生まれ高原育ちの牛だけを返礼品としていたが、郡内産の高原育ち、そして宮崎牛

## 高原町を訪問して

高原町は田子の3分の1強の面積に1・5倍の人口、予算1・5倍、牛が10数倍、ふるさと納税の額は10倍の町だった。特産と言えは牛らしく、とにかく牛の話で8割の時間が過ぎたと思う。

町に県の畜産試験場があるからなのか、とてもそれに力を入れているのを感じた。

ふるさと納税にもっと力を入れてPRしようとしていた。私たちの町もそうありたい。

(欠端則夫)

11/15

## 鹿児島県 大崎町

### 大崎町の概要

世帯数 6855戸、  
人口 1万3654人、  
面積 100・67km<sup>2</sup>。

鹿児島県の東南部、大

隈半島に位置する海の幸と陸の幸が楽しめる「食材の宝庫の町」で、主な特産品として、温室マンゴー、うなぎ、露地みかんなどがあります。



リース方式で建てられた「なのはなタウン」

※1 PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）とは

公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行い、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るといった考え方

### 代表的な助成事業

#### ① 定住促進賃貸住宅

##### 家賃補助事業

民間賃貸住宅の家賃の一部を助成。転入世帯かつ新婚世帯の世帯主で条件を満たした者に、月2万円の家賃補助。

#### ② 定住住宅取得補助事業

転入者、在住者の条件を満たした者に、住宅の取得経費の総額の5分の1を補助。転入者の場合は最高100万円。町内居住者の場合は最高50万円。

#### 子育て世帯定住促進住宅「なのはなタウン」

##### リース方式（※2）で

建設した定住促進住宅で整備戸数は12戸。民間事業者が建設した良質な賃貸住宅を町が借り上げ、子育て世帯に安価で転貸する。安心して子育てできる環境作りを支援し、入居者の町内定

住を促進する。

子育て世帯のみが入居できること、入居希望者抽選の際に町外者を優先入居とすることで、入居自体が人口増加に直結する。（入居者12世帯中、7世帯21人が町外者）

#### ○リース方式契約に

##### よる利点

- ・ 財政負担の平準化。
- ・ 関連工事の一括発注によるコストと工期の縮減。
- ・ 契約期間内の経費の固定化。
- ・ 行政の住宅管理の事務負担軽減。
- ・ 維持管理を民間事業者が行うことで、24時間対応サービスと迅速な対応が可能。
- ・ 公営住宅法に則らないことから、自由なデザインや設備の設計が可能。
- ・ 事業着手の目的が「子育て世帯の確保による人口増加」であったことから、収支予測にお

ける収入見込みを従来の家賃収入だけでなく、普通交付税や町税などの2次的な収入も考慮し収支予測を行うことができる。

民間が資金調達から公共施設の設計・建設、維持管理などの業務をトータルで行い、そのサービス対価をリース料として受け取る契約の仕組み。

#### ※2 リース方式とは

民間が資金調達から公共施設の設計・建設、維持管理などの業務をトータルで行い、そのサービス対価をリース料として受け取る契約の仕組み。

### 大崎町定住促進住宅「シャルム文化通」

PFI方式（※3）で建設中（鉄筋コンクリート造・5階建て 24戸）。平成27年6月に議会に説明があり、平成29年施設引き渡し、平成29年入居開始予定。

#### ※3 PFI方式の仕組みと手順

PFI事業はその事業のために設立された特別目的会社（SPC）によって進められる。地方公共団体は、SPCが提供するサービスの対価として建設費・維持管理費などをSPCに支払う。SPCは事業の収入を担保に金融機関から資金調達を行い、事業を進める。

### 大崎町を訪問して

事業化へのスピード感に圧倒された。議決から入居まで1年。リース方式、PFI方式。どちらも初めて聞いた方式だが、手段はどうあれ、実現する為の努力に頭の下がる思いをした。地方の課題である人口減少に打てる手を可能な限り行う行政力を見せつけられた思いであった。田子でもできる、やる。気持ちを新たにしたら大崎町の取り組みでした。（尾形恵男）

# 行政視察研修報告

12月15日から16日の1泊2日の日程で、田子町議会の常任委員会である総務・文教常任委員会と産業・民生常任委員会の合同視察研修を行いました。訪問先は、一緒に東京のアンテナショップを運営している北海道厚沢部町です。

## アンテナショップを通じ同様の問題を抱える仲間

### 食と観光振興推進

### 素敵な過疎のまちづくり

去る12月15日、北海道厚沢部町を訪問し、「食と観光振興推進」と「持続可能となる素敵な過疎のまちづくり」について視察勉強して参りました。

産業の町です。メークイン発祥の地と言われ、夏まつりでは180kgのメークインを使った直径2メートルの「世界一のジャンボコロツケ」が大鍋で揚げられ、来場者を楽しませます。

「食と観光振興推進」につきましては現在、田子町と厚沢部町が連携で出店しているアンテナショップの運営方針、今後の運営課題についてなど説明いただき、活発に議論が交わされました。また昨年9月には、地域間連携を事業目的として両町で「田子町・厚沢部町食と観光振興推進協議会」を立ち上げ、アンテナショップの継続運営を図っていきます。

「持続可能となる素敵な過疎のまちづくり」による生涯活躍のまち構想（日本版CCRC構想）※1は、田子町と同じく人口減少や少子高齢化に苦しむ厚沢部町の過疎対策です。取り組みとしましては、高齢者生活支援事業（高齢者の生活サポート）として13事業行っています。次に地方創生交付金を活用したCCRC事業への取り組みとして地域活性化・地域住民等緊急支援交付金を活用し都市部から町への移住促進・ニーズ調査を行っております。更に地方創生加速化交付金を用い①

地域包括ケア推進及び町立国保病院改革②移住コンシェルジュ配置・育成による移住後の相談体制の構築・空き家の活用・就労情報提供など移住対策の充実③多世代交流・コンパクトシティ化のための施設整備・具体化など。まずこれらの事業をモデル事業と位置付け、早期実現するため、民間の力を最大限に活用する公民連携によるまちづくりを推進・最後まで安心して暮らせる仕組みづくりを行うことが先進的な取り組みとして実現出来ることでした。

※1  
日本版CCRC構想  
東京圏をはじめとする高齢者が、自ら希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることが出来るような地域づくりを目指すもの。

### 視察をして

同じく問題を抱えている田子町でも大変参考になるお話しでした。これからも厚沢部町とはアンテナショップを通じ同様の問題を抱える仲間として連携して行きたいと思えました。

（宮村尚哉）



説明をする厚沢部町職員

# 新年のあいさつ 謹賀新年



田子町議会 議長  
澤口 勝

町民の皆様、新年明けましておめでと  
うございます。

本年が、皆様にとりまして、実りの多  
い素晴らしい年となりますよう心から  
祈りいたします。

年頭に当たり、田子町議会を代表しま  
して新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より田子町議会に対し、深いご理  
解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げ  
ます。皆様方の温かいご支援、ご協力を  
賜りながら、議会活動の活性化や公正で  
円滑な議会運営に努めており、これまで  
以上に、田子町の発展と町民福祉の向上  
のため、議長としての務めを果たしてい  
く所存です。

今年も、西年であります。「酉」とい

う漢字は口の細い酒壺を描いたもので、「酉」に関する字に用いられ、収穫した物から酒を抽出する意味や、収穫できる状態であることから「実る」とも表します。果実が成熟した状態を表していることから、今まで頑張ってきたものの成果があらわれる年と考えられています。当議会といたしましても、実り多い一年となりますよう、全力を尽くしてまいります所存です。

町民の皆様には、ますますの御健康と御活躍を御祈念申し上げますと共に、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。

## 編集後記

新年明けましておめでと  
うございます。今号の「議会だより」第90号を無事発行することが出来ました。今号は、9月から12月までの議会活動が活発に行われ、内容ボリュームも多くなり、通常12ページから16ページになりました。また、ご多忙の中執筆協力して下さいまして大変ありがとうございます。これからも編集委員、一丸となつてがんばりますのでよろしくお願  
い申し上げます。

宮村尚哉

### 発行・編集責任者

議長 澤口 勝

### 議会広報編集委員会 (第90号)

委員長 宮村 尚哉

副委員長 宇藤 大介

委員 日沢 一雄

委員 尾形 憲男

委員 沢口 博二

執筆協力 砂子田 康雄

欠端 則夫